



音楽運動



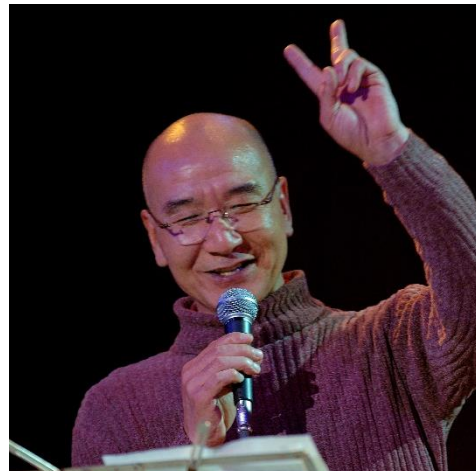
日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

第57回はたらくものの音楽祭は福島（県内）で開催します。

2026年10月頃、福島県内の何ヶ所かの会場をリストアップしながら、8月後半に福島県支部で検討していくそうです。

そこで、まずは、今年10月の長野音楽祭の成功に向け、全国の取組みをお願いします。（佐藤）

今村一男さん



追悼

新潟県支部
を代表して

山本英二

7月18日朝、新潟県職労大会に向かうため、新幹線に乗り込んで一息吐いた時、胸ポケットに入れていたスマホが震えた。LINEの通知機能によって待ち受け画面に表示されていたのは、今村一男さんの名前で「いつも、お世話になり、ありがとうございます。」の文字。あれっ?と思いながらLINEを開いて確認すると、日音協新潟県支部のグループに送られたメッセージ。「昨日、夫が脳溢血で、突然帰らぬ人となりました。生前のご厚情に感謝申し上げます!」と添えられていた。

突然過ぎて戸惑いながら、夫人のしげ子さんが一男さんのスマホを使い連絡をくださった、つまり連絡手段が唯一LINEだということを理解した。取り急ぎお悔みと感謝の気持ちをお伝えし、松本会長、ブロックの仲間にコピーで連絡した。とりあえずの対応が済むと、今村さんのことが色々思い起こされて、力が抜けていくような大きな喪失感が心に滲んできた。まるで、いつも当たり前に見えていた灯台の明かりが、突然見えなくなってしまった夜のような気分だ。これからどうしていけばいいのか。今村さんは新潟県支部が再建されてから、後輩の私たちに具体的に指示をするようなことは一切なかった。ただいつも私たちの議論を、そして今村さんの素晴らしい作品を乱暴に編曲したり演奏したりすることすら、温かい笑顔で聞き、受け止めてくれていた。それがどんなに私たちの活動を自由に、そして少しずつ成長に導いてくれていたことが。

7月21日、新潟県支部の定例練習で「鳩ふ舞いあがれ」と、長年の思いでようやく完成された「長崎平和祈念像の歌」の2曲を歌い、ご冥福を祈り、追悼と感謝の気持ちを捧げた。喪失感と参議院選挙結果の重い気分とを抱えながら。4番の「平和の泉には水が湧っています」のところで思わず涙が湧いて、止まらなくなった。何て穏やかで深く優しい、だけど力強い歌なんだろう。恐らく遺作になったこの曲を、私たちが今村さんと一緒に作り上げ長岡音楽祭で発表させていただいたことは、間違いなく新潟県支部の一里塚となった。書いていて涙が止まらない。最後にこの言葉を捧げます。

今村一男さん、沢山の歌をありがとうございました。次世代に引き継げるよう、歌い続け、広め続けます。安らかに眠りください。過ちは再び繰り返しません。そして繰り返させませんから。

短 信

7月27日、日音協はズームミーティングで第8回幹事会を開催しました。まずは、長野県実行委員会では「スピードをアップしなければならぬが、着々と準備を進めています。」との報告があり、課題を協議しました。

〈今後の日程〉 主なもの

- 8月4〜6日 被爆80周年原水禁世界大会広島大会
- 8月7〜9日 被爆80周年原水禁世界大会長崎大会
- 8月22〜23日 FMカンパニー合宿（江別市・ペンション優）

- 8月23〜24日 私鉄合宿（詳細は未定）
- 8月23〜24日 Next Stage（長野市・花みずき貸スタジオ）
- 8月28日 出演申込、清風園宿泊と全国交流会、申し込み締切
- 8月28日 第9回幹事会、音楽祭企画とスポートライト決定
- 8月30〜31日 関東ブロック合宿（茨城県・牛久市）
- 9月10日 宿泊・全国交流会などの料金請求書送付（なので、各支部の申込書の提出を確実にお願いします。）

第56回はたらくものの音楽祭
2025年10月18日(土)~19日(日) 長野県千曲市・戸倉創造館

2025年8月23日 長野で開催

「日音協Next Stage」は、これまでの「若い会員の交流会」の運営スタイルを継承しつつ、「世代を超えた」交流や「コラボレーション」の場として開催します。

演奏する楽曲のジャンルや演奏スタイルも参加者の意向を踏まえた形で開催します。日音協は、新たな会員を積極的に迎えることを基本方針としていますので、まだ日音協会員になっていない若い方たちの参加も大歓迎です。

若い会員のみなさんと交流したいみなさまをはじめ、多くのみなさまからのご参加をお待ちしております。

■日時 2025年8月23日(土) 13時～2025年8月24日(日) 12時

■会場 花みずき貸スタジオ(長野県長野市穂保648・1)《アクセス》長野駅から車で20分(約11km)

■宿泊 長野駅周辺のビジネスホテル(長野県長野市)

※参加者に別途ご案内いたします。
■日程(の詳細は略)

【開催要項は発文済みです】

■参加費と交通費負担

① 参加費10000円(1泊2日、朝食代を含む)、宿泊なしの場合4000円 ※1日のみの参加の場合2000円減額

② 参加費には夕食代を含みません。1日目終了後の交流会は、任意参加(参加者実費負担)です。

③ 40歳以下(2025年8月23日現在)の日音協会員の自宅から会場までの往復交通費は、日音協が全額負担します。申込時に交通費を明記してください。

■参加申込み

① 参加締切日

2025年7月31日(木)〈1次集約〉
2025年8月8日(木)〈2次集約＝最終〉

② 参加申込方法 添付の参加申込書(掲載略)をメールまたはFAXで日音協事務所へ送付。

◆日本音楽協議会事務所
メール nichion@yomogi.or.jp
FAX 03-6369-3057

■その他

・参加申込(日音協・事務所へ)以外の交流会にすることや当日の連絡は、担当の竹内崇史幹事(090-7184-4820)へお願いします。

第9回新潟県支部総会報告

2025年5月18日、まちなかキャンパス長岡・第1スタジオで開催しました。

板井、今村、高木、高野、高林、竹内、埴、山田、山本(英)(す)の9人が参加。

冒頭、板井支部長があいさつし、「昨年は沖縄音楽祭へ向けて議論しながら曲作りを進め、活動の幅も広がってきた。これまで少しずつ活動を積み上げてきた成果だ」と振り返りました。

松本会長のメッセージが紹介された後、活動報告、方針案提案がされ討論へ移りました。活動についての意見として、自治労新潟県本部音楽運動推進委員会の活動を組織的に整理拡充していく必要があること、市民活動や

青年共闘運動への関わり方について等が出されました。集会や街頭行動などが増えてきたことを踏まえて、

日音協新潟県支部の幟旗を作ることが盛り込まれた予算案も含め、提案はすべて採択され、最後に参加者全員でインターナショナルを歌い、会を締めました。

役員は引き続き次のとおりです。

支部長(板井悌二)、副支部長(樋口秀敏・竹内崇史)、事務局長(山本英二)、会計(山本すい)、監査(高木正則)(山本英二)



全国アコニストのつどい 2025(第6回)

- とき 2025年9月26日(金) 15時～28日(日) 10時半
- ところ さつき会館(静岡県・伊東市)
- 費用 参加費＝17,000円
宿泊費＝25,000円(2泊5食)
合わせて42,000円

●講師 窪田聡

●申込先(問合せ先) 岩藤範雄
〒264-0029

千葉市若葉区桜木北 2-2-2-319
TEL/FAX 兼用 043-235-2580

E-mail n.iwatou@gmail.com

または iwatou@mar.email.ne.jp

●申し込み締切

8月25日(月)必着。会館の申し込み人数は最低15名となっています。参加者が少ない場合は中止もあり得るそうです。

●カリキュラムや「参加申込書」など詳細は、岩藤さんに問合せの上、多くの方の申し込みをお願いします。より発展をしていくためのきっかけとなる「ドック」のような「つどい」を目指しているそうです。

(佐藤)

富山県支部 6月7月の活動報告

★6月19日、富山市・Cic前広場において、「政治を変えよう！」アピール集会在、県平和センターほか立憲民主党・社会民主党など民主団体により開催されました。

各団体代表から熱いアピール演説がありました。

富山県支部は、集会開催前に「俺たちのとりで」「うたおう命の歌を」「決意」「あいの風にのせて」を歌いました。(磯野友一)



「原水禁広島大会で『原爆を許すまじ』を歌おう」と、先月号で参加者を募ったところ、参加が不確定という人もありつつ、広島県外から3人が歌に参加することになりました。

広島県音楽サークル協議会の小山さんからは「いつも全国の音楽現場の情報を頂きありがとうございます。アコーディオンを中心に細々と継続しています。今村様の訃報ショックです、幅広く日音協の演奏を支えて下さいました。『ご冥福をお祈り申し上げます』故人の思いを引き出して歌い、鳴らし続けます。原水禁大会参加ご苦労様です。思いを込めて舞台上で全国に発信しましょう。」とのメッセージをいただきました。(松本敏之)

★7月13日(日)富山県民会館1階ロビーにおいて、犯罪を防止する環境づくりの活動されている富山県「更生保護女性会」のアピールイベントにアコーディオン研究会が、1ステージ30分の演奏(アコ合奏4曲、独奏3曲十アンコール1曲)を行いました。きっかけは、4月上旬サークル員へ知人から、その知人の方の知人からということでした。アコーディオン演奏の出演依頼があり出演を受けたもの、主催者団体についてよくわからないまま当日会場へ。会場にはピアノ演

奏、チェロ演奏など各々30分間のステージ演奏がありまた、県内各地区からの活動を紹介したパネル展示など多彩な取り組みで客席も100席あまりあり、また1階2階の通路からも立ち止まって演奏を聴く人たちも出て初めて経験でした。

後日「当日会場に来てアコ演奏を聴いたよ」「磯野さん、アコーディオン弾かれるがやね」など何人から声をかけていただきました。

【今後の予定】

■8月2日(土)「公益社団法人富山県農林水産公社」主催により、立山連峰の薬師岳登山口に位置する有峰森林文化村 開村の日イベントに「令和7年度 有峰で遊ぼう 参加型イベント」が開催されます。そこにも、アコ研が出演します!! 知人から「有峰でアマ、アコ関係なく参加できる音楽イベントがあるけどアコーディオンで参加してみませんか?」と誘いがあり、アコ研のメンバーに相談して出てみようということになりました。只今本番に向け練習中です。

当日は、正午から県内外で活動するプロのミニライブや一般参加によるギター演奏、ピアノ演奏、私たちのアコーディオン演奏など合わせて2時間半にわたり、有峰の山々に響かせます。また、音楽イベントの他、「ダム湖ミステリアスツアー」や「木で遊ぼう」などのワークショップが開かれ、有峰の広大な山々に囲まれ一日を楽しむことが出来ます。(磯野滋子)



■毎年開催されている「被爆者慰霊平和祈念式」が8月6日に予定され、富山県支部に「原爆を許すまじ」の演奏依頼がありました。毎年開催前に「反原爆・反戦」の歌を歌って紹介しており、今年は「長崎平和記念像の歌」を歌って紹介したいと思ってたところ、先日作者の今村一男さんの訃報に言葉もありませんでした。でも、しっかりと歌い続けていこうと思います。(磯野友一)

7月30日、カムチャツカ沖で、マグニチュード8.0の地震発生。全国に津波警報! 八戸港では80cm、久慈港では130cmを観測。海外にも津波到達。猛暑の中、高台や避難所への避難続く。東日本大震災を思い出しながら音楽運動を編集集中。(佐藤)

戦後80年 ピースフルコンサート by FMカンパニー

ウクライナにガザ、連日のように戦禍の報道が流れる。戦後80年を迎える国内では「新たな戦前」の動きも。日米安保、軍備の増強は「沖縄の基地問題」に凝縮される。沖縄の知念良吉と共にFMカンパニーはこれからも平和を歌い続けます。

平和っていいんでないかい

北から南へ～平和への大航海

スペシャルゲスト

知念 良吉



ちねん りょうきち 1952年コザ市生まれ

沖縄を代表するブルースシンガー。代表曲「何処へ行くオキナワンボーイ」は多くのミュージシャンにカバーされる名曲である。沖縄の基地問題や社会問題を歌い、平和運動にも積極的に参加している。現在も全国各地でライブ活動を続けている。
CD 「オキナワンボーイの喜怒哀楽」「青空の生まれるところ」

日時 2025 8.9 (SAT) Start 17:00

場所 LoRe 1スタジオ 中央区南9条西4丁目1-7
韓国文化会館 B1 (1F あすか信用組合)



地下鉄南北線 中島公園駅
2番出口から徒歩30秒

チケット 1,000円

会場ドリンク類の原価販売あり
(ビール、地酒、ソフトドリンク、おつまみ)

申し込みはメールか電話で
右のQRコードでメールを読み取り出来ます
hiroiso2021@gmail.com
連絡先 090-5953-2458 (観野)

主催 FMカンパニー
後援 日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会



[金平茂紀のワジワジ通信2023] (11) より引用

……。どうしても聴きたいと思っていたのは、沖縄のフォークシンガー知念良吉さん(71)の歌だった。実は知念さんのことを僕は35年前に取材して、当時のニュース番組で特集として放送したことがあった。「どこへ行くオキナワンボーイ」という歌をコザ(沖縄市)のライブハウスで聴いていっぺんに魅了されてしまったのだ。その後の沖縄がたどる苦難の道筋を予言していたかのような哀切極まる歌声に僕はひかれた。あれから35年。当時30代だった知念さんも僕もそれなりに歳をとった。ステージに登場した知念さんは、この歌をいきなり歌い始めた。頭の中を走馬灯のように風景が駆け抜けていった。〈ああ、どこへゆくオキナワンボーイ美しかったものは泥だらけああ、どこへゆくオキナワンボーイ夢まで用意されていた〉

……。今回の平和大集会(2023年11月23日、那覇市・奥武山公園陸上競技場)の主催者たちは、いくつかの課題を抱えながら準備をしてきたようだった。ひとつは旧来の政党・労働組合・既成政治団体主導の集会から、市民参加型の開かれた集会に形を変えていくこと。もうひとつはシニア世代から若い人々がもっと中心となって会の運営や中身を考えていくように変えていくこと。これは日本国内のあらゆる市民運動が抱えている課題でもある。どの地域に行っても、集会やデモの参加者は圧倒的に高齢者が多い。それで何が悪いの?と言われれば、それまでだ。高齢者がこの世とおさらばすれば、運動自体もきれいさっぱり霧消する。それでいいじゃん、と言われれば、それまでだ。引き継いでいくものなんかないんだよ、と宣言するに等しい。

集会の司会者は若い世代の男女が担っていた。とても好感が持てた。歌が随所で聞かれた。若い世代の桑江優稀乃さん(26)が三線を奏でながらの「童神」は心を揺さぶった。桑江さんは医師国家試験に合格し、医学を志しながら、一方では反戦平和を求める活動を積極的に行っている。さらには93歳の石垣島出身の戦争体験者、山根安行さんのお話と八重山民謡「とぅばら一ま」は実に素晴らしかった。歌詞は山根さんが集会のためにつくったものだ。〈戦世(いくさゆ)ぬ地獄コロナぬ嵐凌(しぬ)ぎ命果報(ぬちがふう)なまになりぬ(今になった)命どう宝〉

……。以下、省略。

(テレビ記者・キャスター)

8.9は札幌で
ピースフルコンサート

今年は戦後80年の節目の年で様々な催しがされるが、FMカンパニーも「平和っていいんでないかい」ということで、コンサートを行う。(「音楽運動」への投稿遅れ、申し訳ありません。)

2019年の11月に「うたっていいんでないかいコンサート」を実施して以来、コロナ禍でライブ会場の使用条件が厳しくなり思うようにならなかった。

今回の会場は昨年ブービーバンド200歳記念ライブをやった地下のレンタルスタジオ。

飲食自由なので、真夏の夜をビールを飲みながら平和の歌を聴いてもらうことができる。

スペシャルゲストとして、沖縄から知念良吉が10年ぶりにやってくる。まさに「北から南へ 平和の大航海」のライブになるだろう。

申し込みは、チラシの二次元コードからお願いします。

ただお盆前の3連休なので航空代は半端ないみたいです。

(磯野宏之)

はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話し 第14弾

坂口美日

第 56 回はたらくものの音楽祭舞台配置図記入に関して

- そろそろ舞台配置図記入の時期になってきました。記入に際しての不明点などありましたら、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先 電話：090-7945-6400 メール：p.mikann@nifty.com（坂口）

- Windows 用と Mac 用の舞台配置図ファイルをお送りしています。
パソコンで作成される方は、お使いになるパソコンに合わせて、ファイル名末尾の（Windows 用）または（Mac 用）のどちらかを選んでお使いになると、作成がよりスムーズになると思います。逆に、Windows のパソコンで Mac 用ファイルを開くと（逆の場合も同様）、文字化けや行間のズレ、図の配置が正しく表示されないなどの現象が起きますのでご注意ください。

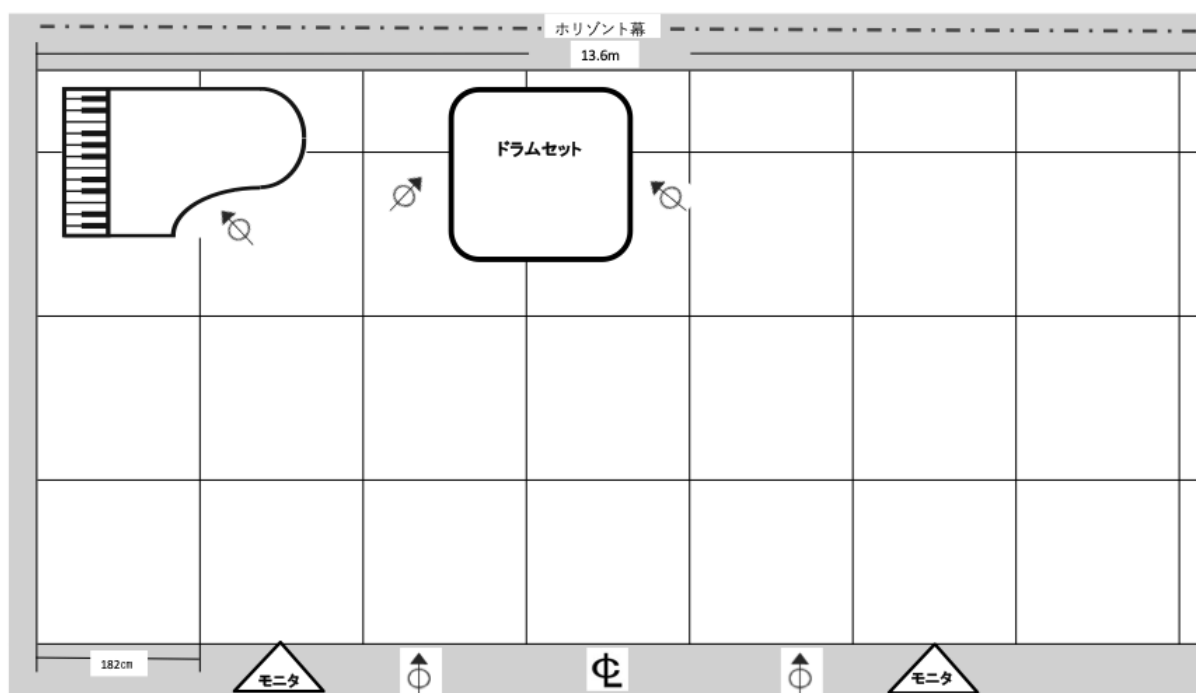
- ステージで、DI・エフェクター・アンプなどに楽器を接続する予定の方、必読です。
第55回音楽祭同様、上記機材への接続シールドケーブルは、主催側で用意する予定ですが、自分のシールドケーブルを使いたい方は、必ず舞台配置図の持ち込み機材欄に記入をお願いいたします。

- リハーサルについて
ドラム・DI・エフェクター・アンプなどに接続する楽器を使用する場合は、なるべくリハーサルをお申し込みください。特に、客席とステージの間のフリースペースを演奏で使用される場合は、スピーカとコンデンサーマイクの位置関係から、ハウリングを起こさないためにリハーサルが必須となります。

第 56 回はたらくものの音楽祭 舞台配置図 (Mac 用)

提出〆切 2025 年 9 月 26 日(金)

出演団体名【 】 出演者数 人 作成者名 2025 年 月 日作成
電話番号



コンデンサーマイク

コンデンサーマイク

水道橋だより

▼連日の猛暑の中、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。松本会長からのメールに何人からか返信を頂きました。▼こんな暑さは初めて、玄関先は41度を指しています。お互いに体調に気をつけ頑張りましょう。（北見の熱田征一さんから）▼また、今村一男さんの訃報を受け、▼思い出としては「ヒロシマ」の作曲をするために、日音協として窪田さんと今村さんが来広され、故・栗原貞子（生ましめんなかな、未来はここから始まる、等の詩人）さんから話を伺った後に宿舎で作曲活動に移りました。僕らも含めその場では作曲までは至りませんでした。あの場で体験した事を基に作られた曲が「鳩よ舞い上がれ」だったように記憶しています。

（広島県音楽サークル協議会の牛田紀之さんより）

▼転居に伴い、7月23日に東京都民から福島県民となり、8月から福島県支部会員となります。

（坂口美日）

▼原稿差替え等で、那覇市議選の結果のスペースがとれず、すいません。期待してます。（佐藤康弘）

歌の力が物語るもの144

葉萸坂うた行動 7/25 (551回) 報告 Rico

【参加者】鈴木さん、モッチー、かおるさん、周平さん、ゆきさん、イサさん、達哉、森 計8名

風間は焼けるように暑い

が、葉萸坂の時間になると気温は高いながらも風が涼やかで、ほっとする。8月が近く。今日は『原爆を許すまじ』を歌いたいと思いながらここにきた。次世代の原発の新設が計画されたり、「核武装は安上がりだ」などと公言する国會議員が誕生したり、この国は核による被害を何度も経験したくせに、あまりに危うい方向に向かっていて、気持ちざわざわする。80年前、全

身にやけどを負った人々の苦しみはいかばかりだったか。8月の暑さも痛みに追い打ちをかけただろう。この歌を歌詞カードにリクエストしたゆきさんが、マイクを持って歌った。

鈴木さんが『手をつなごう』という歌の楽譜を配った。窪田さんの曲で、「私たちのふるさと 豊かなふるさと」遠くに行くさが 今でも続く 守るのは私たち ひとりからふたりへ 手をつなごう」と歌う。軽やかで歌いやすいメロディ。繰り返し歌ってみんなで覚えた。そして『明日を殺すな』『辺野古旅情』『DO！廃炉』と続けた。

新潟の今村一男さんを悼んで、『座り込めこへ』を歌った。柏崎刈羽原発や巻原発の建設反対大闘争がこの歌を生んだのだと聞いている。時を経て場を変えても、歌い継がれている歌たち。亡くなった反原発うたいたいの仲間の話にもなった。利美さん、ヨッシー、当山さん。「みんな7月や8月に逝ってしまったよね」と鈴木さんが言った。偲ぶことも大事。一緒に歌った熱と怒りを振り返るために。ぎっくり腰上りの森は背中がしんどくなってきたので、アコーディオンを周平さんに代わってもらった。急なお願いでも応じてくれるからすこい。周平さんの伴奏で『月桃』『ふるさと沖縄』『あなたに届け』『メッセージ』を歌った。ありがと。最後はまたアコを抱えて『原子力発電

NO!』で意気を上げた。今日は通行人が多かった。それも若い人たち。こちらに目を向ける人も多くて、終わりのころにはプラカードを持っている人も見かけた。なんと官邸前で19時から、『がんばれ石破!』集会があったらしい。帰りがけに見に行ったら、「石破がんばれ!」「高市ひっこめ!」とコールが響いていた。極右連立が起こりそうなた。極右連立が起これば、ネットでの呼びかけにかなり大勢が集まっていた。共通スピーカーが無くてエリアごとに声が上がっている。みんな不安なんだ。じっとしてはいられないんだ。

那覇市議選・当選

7/20



普久原朝日さん
沖縄音楽祭で司会を担当



平良昌史さん
沖縄県支部・支部長

どん行

(193)

飯島貞親

め、自民党の保守層の支持基盤を侵食し躍進したのには、ヒトラーをも想起させる暗たんたる気持ち強くふくらませた。

▼参院選は、衆院に続いて自公が少数与党になった。石破政権の発足からこの参院選まではひと連りの政局過程であり、中心課題は、第2次安倍政権とその亜流に過ぎなかった菅義偉と岸田文雄の2つの政権とが残した「安倍政治」の悪しき遺産を暴くことであった。石破は、非主流ないし反主流を通してきた稀な存在であり、巡り合わせて総理大臣の座に就いたからには、脱安倍化を通じての再生の旗手として自己を演出すべきだった。▼今まで国会内外でさんざん議論されたことなのに自民党には継承しようとする気風はなく、石破は5年間で6億7500万円という最大の闇資金の規模を誇った安倍派と全面対決になることを避けた。そうこうするうちに安倍派は、参院選の目前に政治団体としての解散を届け出て、証拠は完全に隠滅された。▼問題をうやむやにしよとする自民、平気で自民党の裏金議員を推薦した公明、与党の驕りは確実に票につながった。▼一方で、外国人受け入れに反対することを選挙公約に掲げ、日本人ファーストの政策を掲げた参政党が保守的な若者の支持を集め、自民党の保守層の支持基盤を侵食し躍進したのには、ヒトラーをも想起させる暗たんたる気持ち強くふくらませた。